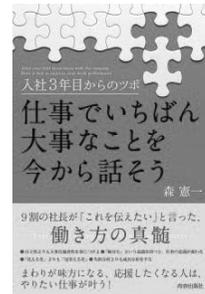




『入社3年目からのツボ 仕事でいちばん大事なことを今から話そう』

森憲一 著

青春出版社 1400円＋税



社会人になって何が困ったか
と聞いて、それまで生きてきた
経験値が直接役に立たないこと
ほど困ったことはない。

そんなの当たり前と思われる
かもしれないが、決してそんな
ことはないと思う。学生までに
要求されること、社会人とし
て要求されることにあまりにも
断絶がありすぎて、慣れるまで
に相当な時間と労力を要したの
は確かである。

そのことは、社会人になった
ばかりの人にだけ関係のある話
ではない。世は高齢社会で、多
くの企業にとって人材不足は深
刻になっている。巨額の経費を
計上したのに、誰も採用に応募
してくれない、採用できてもす
ぐ辞められてしまうなどよく聞
く話で、「人が宝」の時代にな
ったのだ。

でもないことをさらにと要求す
るビジネス書がたくさんある。
成功者になるためにはこんなこ
とまでしなくてはならないの
か。あるいはこんなことができ
るくらいなら誰も苦勞しないと
思われるものが多い。

社会人のための「社会人入門」

時代でもある。
3年以内に会社を辞める若者
が多い理由はそこにあるだろ
う。昔から3年ものものは一
もつと言われるとおりで、最初
に掴んだ突端から次の高みを目
指さなければならず、それが全
身運動を伴うのは当然のことな
のだ。

本書はたてまえについては一
切書いていない。すべて本音、
あるいは裏側、さらにいえばか
らくりまでとても正直に書いて
いる。同時に、私はこの本をあ
る程度社会人経験のある人に読
んでほしいとも思うのであり、
なぜなら、私自身が本書からの
裨益を多く受けるものの一人だ
からである。

が読むべきだと思う。そして、
責任ある立場として次の世代を
育成する人々が手にするべきだ
と思った。

総力戦とは、頭の中の知識は
もちろん、もてるものはすべて
活用しなければならぬ試練の
時代に入る。

「もつと早く知っていたら少
しはましになっていたのに」と
嘆ずるのが人の世の常である
が、大事な知恵というものは
知ったときがいちばんの使いど
きなのだ。

私自身、今もつてできていな
いことのほうが多い。たとえ
ば「したたかに聞き流す」とか
「私」より「私たち」と考え
る」などはまったくできていな
いし、考えたことさえなかった。
この本は汎用性の高い、それ
でいて誰も教えてくれなかった
種類のアプローチを教えてください
ている。

森里陽一 社会生態学研究者